深い学びのために

学習のポイントの解答例

1　管仲の三つの行動における鮑叔の評価と、その理由をまとめてみよう。

【答】

管仲の三つの行動	鮑叔の評価	評価の理由
管仲と鮑叔は一緒に商いをしたが、管仲はその利益を自らが多くとった。	欲深いとしなかった。	家が貧しいことを知っていたから。
管仲は、鮑叔のために事を企てたが失敗し、行き詰った。	愚か者だとしなかった。	時によい時と悪い時があることを知っていたから。
管仲は、三回戦って三回敗走した。	臆病者だとしなかった。	養うべき年老いた母親がいることを知っていたから。

▼ポイント▲　まとめる視点は三つ、設問に指示されているので、それに従う。まとめる範囲は、「管仲字夷吾。…知三仲有二老母一也。」なので、その箇所を丁寧に読み取らせれば、容易にまとめさせられる。

言葉と表現の解答例

1　「管鮑之交」とは、どのような関係か、説明してみよう。

【答】　お互いに理解し合い、自分たちの立場が変わっても壊れることのない信頼の厚い友情。きわめて親密な関係のこと。

▼ポイント▲　漢和辞書やインターネット、故事成語辞典などを調べさせれば答えは出る。

2　「謀る」「図る」「計る」「測る」「量る」「諮る」の意味の違いを調べてみよう。

【答】　「謀る」＝よくないことをたくらむ。「図る」＝あることが実現するようにくわだてる。「測る」＝長さ・高さ・深さをはかる。「量る」＝重さ・容積を調べる。「諮る」＝上の者が下の者に相談する。

▼ポイント▲　漢字一つずつ調べれば理解できるが、資料集などの中にはまとまっているので、そこを確認させる。

言語活動の解答例

1 **管仲が鮑叔に、鮑叔が管仲に抱く心情を、本文に即してまとめてみよう。そのうえで、管仲と鮑叔は、それぞれどのような人物として描かれているか、分かりやすく説明してみよう。**

【答】

〔鮑叔が管仲に抱く感情〕

鮑叔は、管仲が自分に対し不本意な行為をしても常に温かく見守り好意的にその言動を見守り理解し、支援した。それは、管仲の政治的手腕や才能を高く評価するとともに友人として信頼していたからだ。つまり、鮑叔は管仲に対し常に信頼感を抱いていたのだ。

〔管仲が鮑叔に抱く感情〕

管仲は、鮑叔が自分を信じ続け、さらに桓公に推薦してくれた、その友情と自分の才能を認め活かしてくれたことに感謝の気持ちを持っていた。

〔管仲と鮑叔の描き方〕

以上のことから、管仲は政治的手腕の高い、才能ある者。鮑叔は、それを認めて支援する者というように描かれている。

▼ポイント▲　ここは、グループや隣同士で話し合わせ、他の人の様々な意見や視点を聞き、自分の意見を作り上げる活動が大事となろう。そのグループでまとめた意見は、必ず全体に発表させる。その際、自グループでまとめた意見に対する他のグループの質問や意見が出ると授業は活発化するし、深化する。

さて、指導者はこの言語活動の前に、次のことを理解しておく必要がある。それは、管仲は「桓公九レ合諸侯一、一レ匡二天下一、皆管仲之謀。一則仲父、二則仲父。」とあるように、その開花させた政治的手腕によって斉の宰相まで上りつめる。つまり、才能ある者として描かれているのだ。鮑叔は管仲の政治的才能を見出し、友人として信頼し、そればかりか、斉の桓公に有為な人物として推薦する。鮑叔の信頼や推薦がなければ、いくら才能がある管仲でも、その才能を開花させることはできなかった。鮑叔は人を見る目のある人物・才能ある者を支援する人物という描き方がされている。」ということだ。これを前提に、話し合うポイントを指示する。それは以下の通り。「①管仲の鮑叔に対する心情は、『仲曰、生レ我者父母、知レ我者鮑子也。』に表現されているので、グループで吟味しながらまとめよう。②鮑叔の管仲に対する心情は、『管仲字夷吾。…知二仲有二老母一也。』に表現されているので、グループで吟味し、わかりやすくまとめる。その上で、③それぞれがどのような人物として描かれているか、適切な言葉で表現してみよう。例えば、管仲ならば、『桓公九レ合諸侯一、一レ匡二天下一、皆管仲之謀。一則仲父、二則仲父。』と表現されているので、これより斉の宰相まで上りつめた人物ということがわかる。そこまで上りつめるような人物の像はどのようなものか、グループで話し合い、それを表現するのに適切な言葉を見つけてみよう。以上、話し合うポイントを三点指示した。それをベースに管仲と鮑叔の人物像をグループで話し合い、適切な言葉でまとめてみよう。」

という指示を出してもよい。それぞれの人物像を適切でなるべくわかりやすい言葉で表現できれば、言い換えの言語活動にもつながる。

何も助言を与えずに話し合いをさせるのも、いろいろな視点からの意見が出てくる可能性があり、授業は活発化する。その意味から考えると、助言・指示は視点や考え方を提示してしまうので、それぞれの意見の固定化につながるかもしれない。

話し合った内容を発表するので、伝え合うために、わかりやすい文章の工夫を意識することを期待したい。

最後に「研究資料漢文学」に、「史記」の本文と同箇所を論じた補足があり、面白い指摘があるので引用する。

「当時にあって、大夫としての第一の使命は、その主君を覇たらしめることであった。そのためには政治的手腕にたけた優れた人材が必要であり、鮑叔は交遊を通してその才能を管仲に見たのである。更に、鮑叔既進二管仲一、以レ身下レ之。…天下不レ多二管仲之賢一、而多二鮑叔能知レ人也。とあることからすると、鮑叔は管仲を推薦して管仲が活躍すれば、世間の人々は自分をどのように評価するかということまで考えていたはずである。」（「研究資料漢文学　第七巻　歴史Ⅰ」寺門日出男・吉原英夫　明治書院　平十五　P一〇〇）の指摘は面白い。

（前田　康晴）